



碧南ロータリークラブ週報

第2438回例会 平成20年12月17日(水)

- 会長 平岩統一郎 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 木村 徳雄 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 長田和徳・岡本明弘・角谷 修・黒田泰弘



**Make
Dreams
Real**

● 齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

エビフライ弁当 大正館

● 本日のお客様

財団法人 オイスカ愛知支部 会長 杉浦 正行氏

財団法人 オイスカ中部日本研修センター 参事 村松 明氏

山中寛三君クラブ在籍50年記念表彰状 伝達



森田英治君会員増強エンブレム 伝達



会 長 挨 拶

皆さん、こんにちは。毎日、新聞とかテレビにて雇用問題について連日報道されています。それは、景気が非常に落ちてきたというよりも失速してきたということです。ある人に言わせると、100年に一度の不景気だと言われています。まだまだ、この状態が続くようでございます。

ついこの間の7月までは、石油の価格が1バーレル、147ドルまで上昇いたしました。今は40ドルを切った状態です。また、鉄、銅という資源やニッケル、マンガンというレアメタルが何増倍と価格が高騰しましたがやはり急激に下がってきました、200円以上のガソリン価格が100円になるとは予想できませんでした。

景気は、V字回復とかU字回復とかといいますが、現状の景気はL字回復の下がっている状況で一番下にたどり着いていない状態です。まだ、今から3年は今の状況が続くとエコノミストが言っています。

ことの起こりは、アメリカのサブプライムローンが引き金になっております。アメリカ人とは、



生活を楽しむ国民であります。お金が出来たら、住宅とか車とか小旅行、海外旅行に行きます。またお金が無くても月賦やローンを組んで、そのような事をしたい為に働くという国民で、日本人の考えとは違います。

日本の場合は、お金が貯まれば子供の為とか将来の為に貯蓄をする国民ですが、アメリカでは、大学生になると親は学資を払いません、子供が自らアルバイト等で学資を稼ぎます。そのあたりから、子離れしていきます。

そういう環境でありますので、お金を集めて何かに投資して儲ける、労力なしでお金を増やす方法が体に染みついている国民であります。

大きな会社の人、年俸20億、30億もらうのもあたりまえの社会であり、国民もそれにあこがれ、アメリカンドリームを夢見ています。普段は、ジーンズにハンバーガー、コーラが当たり前ですが、バブリーになるために、新たな金融商品を作りながら発展してきました。それが飛び火し、日本の景気が複雑な様相になってきました。

日本は小さな島国であり歴史も違います。アメリカや中国のような考えとは、異質な生き方のところではないかと思えます自分の敷地の範囲、身の丈の生活、考え方、生き方を、もう一度、再構築する大切な時期ではないかと思っています。景気は、まだまだ下がるそうなので、頑張っていかなければと思っています。

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・日本ロータリー親善ゴルフ大会「第20回JGFR沖縄大会」のご案内
と き：2009年3月16日（月）午前8時スタート
ところ：琉球ゴルフ倶楽部
- ・第15回 全日本ロータリークラブ親善合唱祭のご案内
と き：2009年6月6日（土）
ところ：名古屋国際会議場 センチュリーホール
- ・年末年始例会日程のご案内
12月20日（土） 17時00分 衣浦グランドホテル 「年忘れ家族会」
12月24日（水） 12時30分 碧南商工会議所 「年末例会」
1月14日（水） 12時30分 碧南商工会議所 「新年例会」



長田豊治幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数80名(内出席免除者15名の内出席者10名)出席者61名

出席対象者 61/80名	出席率 81.33%
欠席者19名(病欠者0名)	前々回修正出席率 97.37%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

卓話

「オイスカ活動について」

財団法人 オイスカ愛知支部 会長 杉浦 正行氏

愛知県支部会長の杉浦でございます。ロータリークラブの皆様には、公私に亘りご支援をいただき感謝しております。

このたび、2006年5月から愛知県支部の会長を日本ガイシの小原さんから引き継ぐことになりました。私は昭和43年から市議会議員、県会議委員をさせていただきながら平成3年安城市長に就



任するまでオイスカ活動を続けておりましたが、そんなご縁で再びオイスカに参加させていただくことになりました。

オイスカは1961年に設立されました。その創立理念は、物質と精神が調和した人類社会に繁栄を築くということを中心にしています。1969年に国際協力活動機関として外務省、農林水産省、経済産業省、厚生労働省の4省の所管でこの団体が認められました。今日、国際NGOとして発足して以来、創立47年目を迎え、主に東南アジア、あるいは太平洋諸国から大変期待される組織に成長したわけです。東南アジアの研修、あるいは太平洋地域の研修生を受け入れており、約1年間、このセンターの農場で農業研修生として寝泊まりをしながら農業の勉強をしております。もっと専門的に勉強したい人は、県下の園芸農家、養豚農家、酪農など専門の農家に派遣され1年間の研修をしております。

基礎研修は3ヶ月、全て日本語で生活しますから、日本語の勉強をまず基礎研修でやります。日本の生活習慣、その他の勉強も含め大体3ヶ月でやるそうです。若い人達ですから、早く日本語を覚えられますし、先輩の研修生や職員の皆さんとも、大変うまくコミュニケーションできています。研修生がこの11月まで研修しますと、また新年度に新しい研修生が来るわけです。そして、スリランカ、フィリピン、マレーシア、パプアニューギニアなど、それぞれの母国で研修生OBとして、産業開発、農業指導などそれぞれの国づくりに頑張っています。県内では、名古屋市、一宮市、半田市、西尾市、蒲郡市、刈谷市、安城市、豊田市をはじめとして、13のオイスカ支局がございまして、この組織の中でいろいろな活動を展開しています。

第1にオイスカの活動は、海外の技術協力がメインになると思います。例えば、農業を通じた技術者の育成については、特にその国に必要な開発のプロジェクトにも参加して、国づくりに貢献してもらう人材の育成を中心にしております。出来るだけ継続的な開発を目指すということで、この研修生達が国づくりの使者として頑張ってくれているわけです。

第2は、地球環境保全活動を最大のテーマとして、各国でその実践活動をしています。これも、主として東南アジアの国々が森林伐採をしたことで山が荒れ、地球環境も大変荒廃してきました。今は大急ぎで植林活動を東南アジア全域にわたって進めています。

また、国内から植林ボランティアに数々の企業からご参加いただいております。例えば刈谷市では、アイシン精機さんがタイで植林活動を行っています。そして、昨年協定を結びましたトヨタ車体さんが、5ヵ年計画でインドネシアの植林活動を行っています。さらに、県内では「あいや」という西尾市のお茶屋さんが、タイやフィリピン、インドネシアへ社員を派遣して毎年植林活動をしています。それから安城を拠点に、スギ薬局さんから愛知万博のとき大変なご支援をいただき、その益金の一部を植林資金としてスリランカへ協力させていただいております。

次に、もう一つ、県内では木材の価格が低迷しており、せっかく森があってもこの森が大変崩壊しており、全国的には学校林もやはり収益が上がらないと、なかなか県も予算をくれないそうです。去年は安城農林の演習林が100町歩ほど足助にございますが、そこを3班に分けて1泊2日ずつで演習林の再生活動をやってきました。これからも愛知県の場合は、植林の代わりにそういった学校林の再生を継続的にやろうと思っています。愛知県は今年から森林環境税を導入いたしましたので森の再生に活用されると思います。

全国的には、富士山五合目が大変荒れているようですから、この再生活動を東京電力が中心となって、今年のオイスカの全国的なプロジェクトとして勧めています。森林だけでなく、逆にそういった再生活動あるいは造成活動も併せて行っている次第です。

第3に、農業研修の受け入れ実践についてお話しします。1963年から2007年の間8,503人の研修を受け入れ、各国に終了生としてお送りだしています。一番多い国はフィリピンで2,406人、マレーシア954人、インドネシア352人こういった青年たちが国内の中部、大阪、四国、福岡の4つ

の研修センターで1年の研修を経、母国で頑張っています。

第4に、オイスカの国際理解活動であります、例えば民間レベルの交流とか、あるいは教育機関で国際協力の現場経験をしていただいております。それから各種の国際会議への派遣、あるいは国際会議の主催を年数回ほど持っています。

そうした47年の活動を通じ、これまでオイスカは「国際青年友好賞」、そして「国連地球サミット賞」、さらには「国連カテゴリー1」、みどりの文化賞に推挙され、これらの荣誉によって国際理解をいただきながら、特に東南アジア太平洋諸国からは大変期待を寄せていただいております、今後もこのような活動を通じて、人づくり、あるいは国際貢献に努力したいと思っています。

愛知県支部のこれからの取り組みですが、これまではフィリピン、バングラデシュ、等にそれぞれの地域からご協力いただき、農業研修センターを創ってまいりました。そのセンターは、ここよりも小規模ですが、現場の青年たちをそこでトレーニングしております。

愛知県支部の今年の活動としては、新しいプロジェクトでスリランカに研修センターを建設するというもので、既に500万円近くの資金も集まり、これからも建設資金の募集をしながら、進めていきたいと思っています。同時に、植林活動をはじめとして人材育成、海外では21のセンターもございまして、それらとの提携しながら国際協力活動を進めていただきたいと考えている次第です。

最後に組織の再編について昨年からは愛知県のオイスカの組織が2つになりました。従来、日本ガイシの小原相談役が支部の会長をしておられましたが、経済人ということもあり、日常活動はボランティアを中心として、現場、中心の組織にしようということで、その方の組織を私が担当させていただくことになりました。

それから、経済界の皆様には、経済的な支援を継続的にいただくため、「オイスカ中部後援会」という名前で中経連を中心としてリスクアップしていただき、幹事会社約50社に後援として入会いただくことになりました。後援会長には、中部電力の川口文夫会長に就任していただくことになり特に電力会社は地域の植林や環境にとっても関係が深く、「僕も一つ一生懸命応援しよう」ということで理解をいただいている訳です。

このような大変地道な活動ですが、少しでもオイスカ活動をご支援いただきますようお願い申しあげます。私どもは今後も地域環境の保全、海外の人材育成並びに、国際理解活動に向けてさらなる活動を続けてまいりたいと思います。

次回例会案内 平成21年1月14日(水)

新年例会「謡曲 鶴亀『月宮殿』」

会員 平岩統一郎君、植松敏樹君、亀山裕一君